

第1回 JCHO千葉病院地域協議会 議事録

出席者（敬称略）：関係者 目黒、三上、富田、長谷川、和田、積田
病 院 室谷、中村、市原、江連、（事務局）大土、高山、小柳
欠席者 : 病 院 堀

1. あいさつ 江連事務部長

2. 院長挨拶 室谷院長

日本の高齢化社会に向けて千葉社会保険病院はJCHOに生まれ変わりました。
われわれのミッションは地域の人達と連携をとり、市と県と歩調を合わせていかなければなら
ない。そんな中で地域連絡協議会を立ち上げました。

3. 病院の運営方針・運営実績の説明 江連事務部長

4. 当院への要望・ご意見等について意見交換 議長、室谷院長

（当院）当院への要望等忌憚のない意見をお聞かせ頂ければと思います。

あんしんケアセンターさんは順調ですか。

（委員）あんしんケアセンターの相談はフル稼働している。

広報活動（自治会等）も積極的に実施している。地域住民にも周知され、医師会の協力
のもと、多職種連携を進めている。

（委員）内科訪問診療医のアンケートで医師1人の患者4～5人が限界。バックベットの確保が
困難。青葉病院は急性期が強く、入院が難しい。レスパイト等の事前登録システムがあ
るといい。

（当院）連携室で入院の受入を検討していけるようになればよい。（地域包括ケア病棟への入院等）
医師にもアナウンスが必要。

専門外でも対応できるように、プライマリーケア（総合診療専門医）に力を入れていき
たい。県は、そういったところをどう考えているか。

（委員）県議会ではどう考えているか質問はあった。総合診療医が何人いるかわからない状況だ
った。県は必要だと考えている。

（当院）千葉大の総合診療部の生坂教授とお会いした。市の病院としては青葉と海浜で機能を分
け、青葉は在宅支援病床を目的としていくようだ。

- (委員) その役割は市立病院がバックアップしていくべきと、病院局と話をしている。
- 入院ベッドを確保することが地域にとって大変なのかなど。また透析患者のレスパイト入院等も役割としてある。スムーズに入院できるような体制作りが必要。
- (当院) あんしんケアセンターが安心して見られるような、外来はよいが入院が難しい。透析患者の入院できる病院が少ない。
- (委員) 新しく設置した地域包括ケア病棟とはどういうものか。
- (当院) 急性期の治療が落ち着いた患者を受け入れる病棟です。
- (当院) 急性期と回復期の間位です。
- (当院) 千葉県では最成病院と当院だけだと思う。
- (当院) 急性期の病院に挨拶に行きましたが、今後は在宅患者も受けていきたい。
- (委員) JCHOさんで今後、訪問診療をやって行く予定はあるか。
- (当院) 考えていかなければならない。透析患者も高齢化が進んでいく。歩くことが出来ない。送迎を始めた。
- (委員) 送迎はとてもいいが、車が小さい。定員になったので他の病院に行ってくれと言われていている人がいる。
- (当院) 検討していきたい。
- (委員) 最近では透析付きの住宅が出来ている。
- (当院) 市の取組みは？当院がどう関わっていけるか。
- (委員) 市ではビジョンを掲げていない。認知症もお願いしたい。
- (委員) 先日、ある講演で認知症患者1人に5人必要だと。
- (当院) 透析事前指示書に取り組んで11年が経つ。指示書に基づき透析を中止した患者は11名。家族はなかなか決断できない。本人の意識が鮮明なうちに決めておけばよい。
- (委員) 事前指示書はいいと思う。
- (委員) 青葉病院のように支援ベッド作って登録制にして欲しい。
- (当院) 連携室にて確認してみる。
- (当院) 訪問看護ステーションは皮膚・排泄ケア認定看護師の同行訪問を始めますので、活用して頂きたいと思います。
- (委員) あんしんケアセンターと訪問看護ステーションで年3～4回研修している。
- (当院) それでは、そろそろ予定の時間となります。今後も皆様のお役に立てるよう、年に2回位の開催と考えていますがいかがですか。3月に出来ればと思う。地域に役立てる病院を目指して取り組みたいと思いますので今後ともよろしく願いいたします。